

議会だより

令和7年8月号

もろっか

令和7年 第186号

編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村議会



■九州五入れ選手権大会

令和7年第2回臨時議会	2
諸塚村議会構成	2
議長就任のご挨拶	3
随想	9
議会活動報告	9
一般質問	5
令和7年第2回諸塚村議会	4
令和7年第3回諸塚村議会	4
臨時会(6月20日)	4
編集後記	10
国への要望活動	10
九州地方整備局	10
県庁・出先機関挨拶回り	10

〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683 ☎(0982)65-1130

令和7年 第2回臨時議会

令和7年4月28日開会

承認3件、補正予算1件、同意1件、議会構成1件										
<ul style="list-style-type: none"> ●令和6年度諸塚村一般会計補正予算の専決処分の承認 ●諸塚村税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認 ●諸塚村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認 ●工事請負変更の専決処分の承認 50,902,000円 (247,000円の減額) <p>令和5年度奥地林道古原線4.5.6.7.8号箇所災害復旧工事 (4年災) 契約の相手方 興洋開発株式会社</p> <p><input type="checkbox"/>令和6年度一般会計補正予算</p> <p style="text-align: center;">補正前 6,763,000千円 補正額 △929,000千円 補正後 5,834,000千円</p> <p>○主な補正事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">災害復旧事業</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">17,200千円</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">△7,300千円</td> </tr> <tr> <td>農林水産施設災害復旧費</td> <td style="text-align: right;">337,201千円</td> <td style="text-align: right;">△57,480千円</td> </tr> <tr> <td>土木施設災害復旧費</td> <td style="text-align: right;">1,797,298千円</td> <td style="text-align: right;">△811,181千円</td> </tr> </table>		災害復旧事業	17,200千円	△7,300千円	農林水産施設災害復旧費	337,201千円	△57,480千円	土木施設災害復旧費	1,797,298千円	△811,181千円
災害復旧事業	17,200千円	△7,300千円								
農林水産施設災害復旧費	337,201千円	△57,480千円								
土木施設災害復旧費	1,797,298千円	△811,181千円								

諸塚村議会構成

令和7年4月28日構成
任期：令和9年4月30日

議長	たばる なおみ 田原尚美
副議長	いわもと くにかず 岩本國和

総務常任委員会 (4名)	
委員長	かい ひろあき 甲斐弘昭
副委員長	くろぎ けん 黒木健
委員	おがた こういち 尾形浩一
委員	たばる なおみ 田原尚美

産業建設常任委員会 (4名)	
委員長	なかだ まさお 中田政雄
副委員長	やまもと たきや 山本多喜弥
委員	かい ひでき 甲斐秀樹
委員	いわもと くにかず 岩本國和

議会運営委員会 (6名)	
委員長	おがた こういち 尾形浩一
副委員長	やまもと たきや 山本多喜弥
委員	かい ひろあき 甲斐弘昭
委員	なかだ まさお 中田政雄
委員	かい ひでき 甲斐秀樹
委員	くろぎ けん 黒木健

議会広報編集特別委員会 (4名)	
委員長	かい ひでき 甲斐秀樹
副委員長	かい ひろあき 甲斐弘昭
委員	くろぎ けん 黒木健
委員	いわもと くにかず 岩本國和

日向東白杵広域連合議会議員	
委員長	たばる なおみ 田原尚美
委員	かい ひろあき 甲斐弘昭

議会選出監査委員	
委員長	かい ひでき 甲斐秀樹

入郷地区衛生組合	
委員長	かい ひろあき 甲斐弘昭

宮崎県北部広域行政事務組合議会議員	
委員長	かい ひろあき 甲斐弘昭
委員	なかだ まさお 中田政雄

社会福祉協議会	
理事	たばる なおみ 田原尚美
評議員	いわもと くにかず 岩本國和
監事	かい ひでき 甲斐秀樹

国保運営委員会	
委員長	かい ひろあき 甲斐弘昭
委員	くろぎ けん 黒木健

観光協会	
理事	たばる なおみ 田原尚美

ウッドピア諸塚	
理事	たばる なおみ 田原尚美

議長就任のご挨拶

諸塚村議会議長 田原 尚美

4月末の臨時議会におきまして、議長に就任いたしました。身に余る光栄と感激いたしますとともに、責任の重さを痛感しているところです。

議長として全力を傾け、公正かつ円滑な議会運営に誠心誠意取り組んで参ります。

多様化する住民ニーズに応えるべく執行も施策を講じられているところではありますが、議会として執行機関の監視、評価、政策提案など、住民自治の根幹としての役割をしっかりと果たしていく所存です。

住民の皆様におかれましては、どうか健康に留意されながらこの厳しい夏を乗り越えて頂くよう祈念いたします。今後も、執行機関と一体となり住民の皆様の福祉の向上を目指して参りますので、議会に対しこれまで同様温かいご支援をお願い申し上げまして議長就任の挨拶といたします。



令和7年 第2回諸塚村議会定例会(6月20日)

報告2件 議案6件が提出され審議が行われました。

議案番号	件名	結果
報告第1号	令和6年度諸塚村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告	可決
報告第2号	令和6年度一般会計事故繰越し繰越計算書の報告	可決
議案第33号	令和7年度諸塚村一般会計補正予算	否決
議案第34号	令和7年度諸塚村国民健康保険診療所事業特別会計補正予算	可決
議案第35号	諸塚村監査委員条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第36号	特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第37号	諸塚村議会議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第38号	工事請負契約の締結について 宮の元水源地道路災害復旧事業 4億6640万円 指名競争入札 株式会社太伯建設	可決

議案第33号のうち、総務費一般管理費の中で、地域活性化交通拠点基本計画(道の駅基本構想)600万円が否決された。

閉会后、修正のうえ提出された議案について第3回臨時議会が開催され、審議された。

令和7年 第3回諸塚村議会臨時会(6月20日)

議案1件が提出され審議が行われました。

議案番号	件名	結果
議案第39号	令和7年度一般会計補正予算	可決

議案第33号で否決された令和7年度一般会計補正予算の修正された議案が提出された。

村政を問う!

一般質問

《今回6名の議員が質問をしました。》

①相続登記の申請義務化に伴う進捗状況について



甲斐弘昭議員

問 昨年4月1日から、相続登記の申請が義務化された。

これは、全国的に登記申請による相続登記がなされていないために、登記簿を見ても所有者がわからない「所有者不明土地」が全国で増加しており、周辺の環境悪化や公共工事の施工に支障が出てくるなど、社会問題になっているからのもうである。

そこで、相続による登記が済んでいない土地の所有者の数は、村内、村外に現在何名いるのかお聞きしたい。また、義務化から1年余り経過したが、現在まで

の登記申請の状況、それに対する村の対応、進捗状況を村長に伺う。



藤崎村長

答 相続による登記が済んでいない土地の所有者は、村内約300名、村外については、35名である。現在までの相続登記申請は、令和4年244筆、令和5年389筆であったものが、令和6年には645筆と増えている。

村の対応は、義務化以降、村報や防災無線での登記相談のお知らせ時には、相続登記の義務化についても、必ず周知している。

また、9月の館長会に併せ、希望者には法務局の出席講座を実施する予定。これは、登記相談を利用

しても相続登記に至らなかったケースの中に費用の問題もあり、司法書士にお願いすることなく自身でも手続きができるということを知周知するものである。

①小中学校の統廃合について



山本多喜弥議員

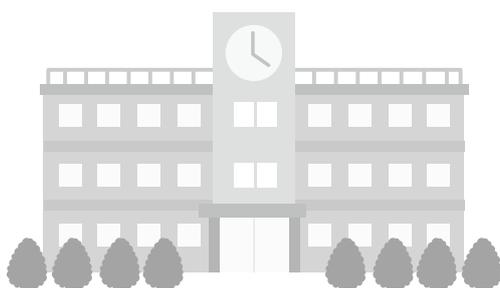
問 令和8年度をもって荒谷小学校が閉校となるが、今後、小中一貫校もしくは義務教育学校に移行する考えはないのか伺う。

甲斐弘昭議員

答 高齢者等の相続登記については、相続される方に相談をして、その方と一緒に法務局に相談に行かれるように話をしている。

登記申請事務を一気に要求することは、困難である

と思うが、定期的な啓発は必要と思われるので、今後とも積極的な指導をお願い





竹内一久教育長

答 令和8年度に荒谷小学校が閉校となり、9年度からは諸塚小学校へ通学することになる。

現時点では児童数の増加も見込めない状況であり、来年度から幼保連携型認定こども園へ移行する準備を進めている。学校においても、小中一貫校や義務教育学校への移行を検討していることが、望ましいと考えている。



①木材加工場の再稼働について



甲斐秀樹議員

問 耳川広域森林組合の加工事業撤退により、林業の衰退感を感じるものであった。再稼働へ向けて協議を重ねている様だが、どのような取り組みを行うのか、生産者へのFSC認証の恩恵が見えるものになるのか伺う。

藤崎村長

答 木材加工センターについては、FSC森林認証材の流通拠点として、村で事業を引き継ぎ、事業主体を一般社団法人ウッドピア諸塚として7月1日から操業を開始することになった。新たな諸塚木材加工セ

ンターは、FSC森林認証材に特化して、村内で加工して、その価値を共有できる取引先に販売する、サブライチエーン構築の事業展開が、図られればと思っている。

創業の開始にあわせて、材積に応じた出材奨励金を交付するFSC森林認証材出荷促進事業を創設し、原木集荷と操業の安定化に繋げ、森林所有者においてもFSC森林認証取得の恩恵に繋がるよう支援して行く。本木材加工施設に掛かる初期投資費用として、森林環境譲与税基金を投入し、支援を行う。

甲斐秀樹議員

問 今後の事業の展開はどのように考えているのか。台風災害で出材出来なかつた素材が集中すると思うが、受入れ量と加工する量のバランスはどうするのか。

藤崎村長

答 販売戦略として、FSC森林認証材に特化した木材加工施設とすることで、FSC認証を取得している業者等からも提案を複数いただいております。FSC認証材を求める動きが確実に増えてきている。

世界基準の森林管理が求められるFSC森林認証と森林認証の林産物の確保、流通過程の管理を対象としたCOC認証を取得しております。認証を最大限、生かしていく。

災害復旧後の木材の受入れ、販売の関係では今回、スタートは工具、五、六人の体制でスタートする。コンパクトな製材体制でスタートしますので、以前の木材加工センターには、年間2万立方ほど入荷があったが、処理できない量であるというふうに見込んでおり、一部は、ほかの製材工場に持って行っていただくということになると考え

ている。

甲斐秀樹議員

問 一部は外部の製材工場に出材することだが、FSC認証材であるということの差別化、管理をしてもらわないと、諸塚で受け入れて加工されたものだけがFSC認証の恩恵を受けて、ほかの工場に流れた分が、認証されないことのないように差別化を図っていただきたい。

事業の運営をウッドピア諸塚で行うことだが、それなりの技術を持った職員、販売の方法について具体的な対策はどのように進んでいるのか。

藤崎村長

答 現在、森林組合の木材加工センターに籍を置く男性5名と、経理事務を担当している女性1名を7月1日付でウッドピア諸塚において採用し、工場の事務や製材サポートにウッドピ

アの森林環境部門から1名が従事していただき、営業業務を含め、木材加工流通部門の全体管理を担う体制でスタートする。

①認定農業者の支援について



岩本國和議員

問 諸塚村の認定農業者は、農事組合を含め14人活動をを行っている。認定農業者になると、「農業改善計画書」を提出しなければならぬ。補助金制度や融資が受けやすくなるが、諸塚の村の経営は、規模が小さく殆どの経験者が該当しない。

人口減少の中、四大産業を支える認定農業者に、農業用機械、車両、施設の整

備に新たな補助事業を立ち上げ、農業の活性化に資するよう村長に伺う。

藤崎村長

答 本村における支援措置としては、農畜産振興対策事業において、認定農業者の認定計画に関する事業については、最優先して事業を採択することとしている。現状において補助要綱全般において、手厚い内容となっているもので、認定農業者に限定した、新たな補助事業の立ち上げは検討していないが、今後とも自らの農業経営に資するものとの認識の下、農業経営の目標を持って、農業経営の改善に取り組みうとする農業者の、認定促進とその支援を図っていく。

岩本國和議員

問 諸塚では、農業だけでは生活することは厳しく、複合経営でしか成り立たないことがほとんどである。

る。林業、シイタケ、茶、畜産、園芸等を組み合わせ、どうにか経営をしている。担い手不足で高齢化になり、どうしても作業を機械に頼らなければならぬ。機械銀行はあるが、国とか県とかの認定農業者の支援ではなかなか該当しなくて、使いつらいということもあり、機械導入等の支援はできないか。

藤崎村長

答 農業者への支援措置については、先ほど答弁をしたとおりであるが、農畜産振興対策事業として、本村においては、その他の事業でも20近い事業を設けて支援をさせていただいている。補助率についても高めに設定をされて、認定農業者を最優先することとしている。

問 農業者が農業経営の目標に向かつて、自らの工夫により、自らの農業経営に進むものとして、経営改善計

画を立てて、自主的に農業経営の改善に取り組みうとする農業者への支援につきましては、今後とも認定農業者の認定も含めまして、補助事業の採択においても、優先して対応していきたい。

岩本國和議員

問 認定農業者あたりで共同で購入すれば補助があるということなので、そういうことも知らない認定農業者たちも多々いると思う。林業のほうには環境譲与税が適用されて、いろいろ機械導入とかには補助があるが、農業と比べると、かなり差があるのでは、と思う。補助制度も見直していく時期になってきているのではないかと思う。相談すれば対応するというようなことでよいか。

藤崎村長

答 個別の個人の機械への支援については、今のところ考えていないが、共同機械導入ということであれば、今でも事業費の80%以内で補助率を定めて支援をしている。事業を検証した上で見直しを図って、継続するものや、これはもう補助効果がなくなっているのではないかと、それからさらに伸ばしていくものに、そのような取組を行っている。

①南海トラフ巨大地震への備えについて



尾形浩一議員

問 南海トラフ巨大地震への備えだが、村内では、



建物の損壊及び崖崩れによる通行止め、停電等が想定されている。夏場、冬場で対応は違ってくるが、シミュレーションをやっておく必要があると思うが、どのように考えるか伺う。

藤崎村長

答 本年1月に南海トラフ巨大地震の今後の30年以内における発生確率の見直しが行われ、これまでの70%から80%が、80%程度に引き上げられた。県防災計画等におきまして、市町村間で広域避難場所を相互利用できるように調整を図っておくとのことから、本地域

においても、日向・東白杵市町村振興協議会における総務部会、防災専門部会において、自治体間の連携を基本に、現在、広域的な検討・協議を調整している。シミュレーションが当然、必要となるので、本件についても、広域的な課題案件として協議していきたい。

尾形浩一議員

問 仮に津波による避難の方が村内に多く来た場合には、夏場の昼間は体育館にはおれんと思うのだが、小学校・中学校の空き教室などが、エアコンが設置されている。シミュレーション

の対象となるかと思うが、酷暑の中でどれほどの人員を収容できるのか、その対応策はどのようなものか伺う。

藤崎村長

答 まずは村民の皆さんの生命、身体、財産を守るということが最優先事項で

あるというふうに思っている。その上で、避難の受け入れが可能な状況であれば、広域連携の役割として可能な限り対応してまいりたいと考える。

本村における収容人数については、村民体育館等の屋内避難施設29施設で2,840人、村民グラウンド等屋外避難施設で6,000人と試算されているが、現実的ではないと考える。具体的なシミュレーションを行って、現実的な数値を把握したいと思う。

①センダンの芽掻き補助について



黒木健議員

近年、早生樹種のセ

ンダンの植林が行われている。2メートルほどは無節の原木がよい製品になるようなので、植林後、最低2年間は芽かきが必要になるが、芽かきに関しての補助が出来ないか村長の考えを伺う。

藤崎村長

答 芽かき作業への補助制度を創設するためには、作業に関わる標準経費を算出する必要がある。令和5年度に宮崎県森林組合連合会が行ったセンダン芽かき作業の工程調査の結果も参考に、村有林等でのセンダンの芽かき作業に係る歩かり調査を実施するなど、補助対象事業としての検証を行って判断したい。

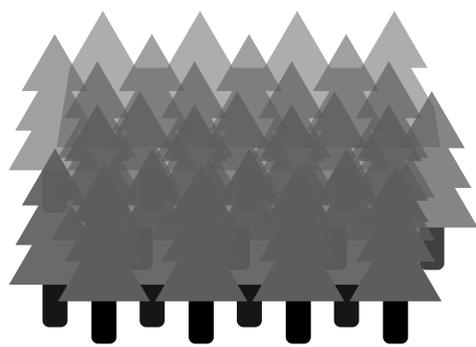
黒木健議員

問 20年前後では化粧板になるので、返礼品開発につながるのではないかと、思っている。また、植林面積が多くないので、森林環

境譲与税の利用ができないか含めて伺う。

藤崎村長

答 今年度の村有林も約5反分、秋植えてセンダンの植林を予定している。芽かきの作業工程調査は、ここでも行うことができるし、また了解が得られれば、これまで村内で植えられた植林地でもこの作業工程の調査を行えるのではと思う。このセンダンの取組については、林研グループの活動から始まっており、しっかりと支援をしたいと思う。



一 議会活動報告 一

月	日	行 事 名	参 加 者	場 所
4	8	議会全員協議会	全議員	役 場
	10	例月出納検査	監査委員	役 場
	28	第2回議会臨時会	全議員	役 場
5	13	県庁あいさつ回り	全議員	宮崎市
		入郷地域期成同盟会要望事項協議	全議員	宮崎市
	14	県出先機関あいさつ回り	全議員	延岡市・日向市
	16	日向・東臼杵郡議長会定期総会	議長	日向市
	18	諸塚中学校運動会	議長	諸塚中学校
	20	県議長会各郡会長会	議長	宮崎市
	21	入郷地域開発期成同盟会役員会	議長 総務・産健常任委員長	椎葉村
	22	例月出納検査	監査委員	役 場
		郡監査委員協議会総会・研修会	監査委員	門川町
	23	中央道沿線議会理事会	議長	延岡市
		椎茸部会総会・生産者大会	議長	中 公
	24	宮崎地区ふるさと村人会	議長・副議長 担当議員	宮崎市
	26	全国正副議長研修会	議長	東京都
東九州道・九州中央道期成会総会		副議長	延岡市	
29	九州中央道沿線議会幹事会	議長	日之影町	
31	延岡地区村人会	議長・副議長 担当議員	延岡市	
6	2	宮崎県乾椎茸生産者大会	全議員	宮崎市
	10	議会運営委員会・全員協議会	全議員	役 場
	14	九州中央道決起大会	全議員	高千穂町
	20	第2回議会定例会・第3回議会臨時会	全議員	役 場
	23	例月出納検査	監査委員	役 場
	26・27	議会要望活動	全議員	福岡市・東京都

随想

甲斐 弘昭

私の趣味

趣味とは、専門としてではなく、楽しみとして愛好する事柄と辞書にあります。

私の趣味は年齢と共に変化してきています。若い頃は、無趣味でしたが、当時「何か生活する中で、夢中になれるものがあるといいなあ。」と趣味も持っている人をうらやましく思っていました。

二十代前半に目覚めた最初の趣味は、カメラ、写真撮影でした。風景、人物が主で、すばらしい被写体に出会えた時は、夢中になってシャッターを切り、写真が現像できるまでわくわくしたものです。

三十代後半から木材加工です。仕事柄、木工教室に通っていた縁で、木工の魅力に取りつかれました。釘を使わない焼きで組み立てた小物タンスや花瓶立てを作りました。

何といても木目の美しさはケヤキの右に出るものはありません。板材を磨いてニスを塗るとすばらしい模様が浮き出してくる。ちゃぶ台や花瓶置きにしました。また、紅タブやモミの根っ子を磨いて置物を作りました。

その頃からガーデニングにも少し興味かわき始め、プランターや素鉢でアロエや山野草などを育てました。

現在は、家庭菜園です。本やYouTubeなどを見て、野菜を育てています。天候に左右され、また肥料の過多や害虫、害鳥の対策もありますが、たくさん美味しい野菜を収穫できた時は、このうえない喜びです。

これからも無理をせず、楽しめる趣味を続けていきたいと思っています。

県庁・出先機関挨拶回り

議会構成が新体制となり、令和七年五月十三日、十四日に県庁・出先機関(延岡、日向)へのあいさつ回りを行った。本村にとっての基幹産業の振興はもとより、台風災害の早期復旧の要望、また、悲願である国道五〇三号線トンネルの早期開通と改良促進を要望した。このなかで、飯干バイパスの事業採択がなされたことにより、「安堵感からくる勢いが薄れてはならない。完成までの間に、事業中止になるような事があってはならないので、これまで以上に地元の声をあげていく必要がある」との助言をいただいた。また、木材加工センターの再稼働については、FSC森林認証の強みを生かしていくことが、今後の力ギとなるとの話を伺った。



県庁あいさつまわり



県庁あいさつまわり

九州地方整備局・国への要望活動

令和七年六月二十六日・二十七日、九州地方整備局に、国道五〇三号線の飯干バイパスの早期完成と路線上の改良促進について、要望活動を行った。現地については内容を把握しており、引き続き支援をお願いした。福岡より空路東京に向かい、翌日、国土交通省・財務省に出向き国道五〇三号線についての早期完成に向けた要望を行った。昨今の資材高騰や物価の上昇で、総枠予算では工事の進捗率が伸びないことが予想されるため、更なる予算の確保が必要になるとのことであった。国のみならず県とも連携した対策が必要になると思う。



九州地方整備局要望



国土交通省道路局要望



議会を傍聴してみませんか？

次回の定例会は9月開催の予定です。

お気軽にお越しください。お待ちしております。

お問い合わせは、議事事務局
☎ 六五一一一三〇

編集後記

今年も春の余韻を楽しむことなく、猛暑が迫ってきました。わずかな梅雨の匂いと田植えの煩雑さから解放された安堵感を楽しむ間もなく、毎日交わされるあいさつは「今日もあつたねえ」と令和の季語になるのではと思ってみたり。

さて、議会構成が変わり編集作業も不慣れな身としては、本誌に目を通してもらえるのか、読みづらくないのか気になりつつの編集となりました。失敗はあっても前向きにトライしていこうと思います。

(甲斐秀樹)

(編集委員)

- 甲斐 秀樹 甲斐 弘昭
- 黒木 健 岩本 國和